鳥類　＜チドリ目　シギ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠB類（通過）　（国：絶滅危惧Ⅱ類）
AVES　＜CHARADRIIFORMES　SCOLOPACIDAE＞　　AICHI：EN（Pas）　（JAPAN：VU）

オオソリハシシギ　*Limosa lapponica* (Linnaeus)

【選定理由】

干潟に生息する大型シギの代表種であり、愛知県鳥類生息調査では庄内川河口で 1993 年 4 月の 515 羽を最高に、2000 年の春まで毎年 100 羽を超える飛来があり、秋の記録は 1978 年 9 月汐川河口の 105 羽が最高である。2010 年以降の春は庄内川河口で 2011 年 4 月の 39 羽が最高で、その後は毎年 10～20 羽程度の飛来となっている。同じく 2010 年以降の秋の記録は庄内川河口で 2010 年 10 月の 17 羽が最高で、庄内川河口、汐川河口とも 2017 年以降は各 1～2 羽の記録となっている。

【形　態】

全長 37～41cm、翼開長 70～80cm。夏羽の雄は、頭頂や上面は黒褐色で背や肩羽に赤橙色の羽が混じり、顔および下面は一様な赤橙色、雌には全く赤橙色がない。冬羽は、上面が灰褐色で羽縁が白く、下面は灰白色。幼羽は冬羽に似るが、肩羽と三列風切の褐色の軸斑がぎざぎざ模様に見える。嘴は長くてやや上に反り、基部が肉色で先端が黒い。腰は白色で上尾筒と尾羽に黒褐色の横斑がある。

愛知県西尾市, 2008 年 5 月 11 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸の干潟に飛来するが、秋に飛来するものの大半は幼鳥である。

【国内の分布】

北海道から沖縄にかけて春と秋の渡り時期に飛来する。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部とアラスカ西部で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカから、ニュージーランドまでの大陸や島嶼の沿岸部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

干潟に強く依存する種で、春は 3 月下旬から 5 月、秋期は 8 月から 10 月に飛来する。泥の中に嘴を深く差し込んで貝類やゴカイ類などを捕食する。オーストラリア東部で越冬する亜種オオソリハシシギ *L. l. baueri* の成鳥が飛来するのは春だけで、秋は幼鳥のみである。オーストラリア西部で越冬するコシジロオオソリハシシギ *L. l. menzbieri* と思われる亜種も、春秋に少数が飛来している。

【現在の生息状況／減少の要因】

1970 年代までは、本種が飛来する干潟は、県内各地に数多く存在していた。現在も県内には 8 ヶ所程の飛来地が残されているが、いずれも干潟面積は減少し、後背湿地も減少している。海や干潟は貧栄養化で餌生物が減少しており、本種の県内全体への飛来数は減少の一途を辿っている。

【保全上の留意点】

現存する干潟を保全するとともに、干潟に生息する生物の生態系を回復することが重要である。河川から供給される栄養塩類の減少が指摘されており、試験的に終末処理場の管理運転が実施され始めたが、さらに研究が進められることで、豊かな海や干潟が復活することが望まれる。

【特記事項】

米地質調査所（USGS）が衛星を使って行った調査では、ニュージーランドで越冬した個体が春の渡りでは無着陸で 7 日程かけて朝鮮半島まで渡り、その後同じく 5 日程かけてアラスカ西部の繁殖地へ到着した。秋の渡りではアラスカからニュージーランドまで 11,680km を 8.1 日間、同じくノンストップで渡っていることが明らかにされており、この距離は渡り鳥の無着陸飛行最長記録である。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, pp.134-135. 世界文化社, 東京.

（高橋伸夫）